

Hanja Times

ハンジャタイムズ

7 令和7年
2025
July

組織が今すぐ
取り組むべき

AI時代の業務改革

広がる「ボイスフィッシング詐欺」

2025年のIT どうなってるの？

クイズ これって知ってる？ 最新技術編 4コマ漫画

株式会社ハンジャ・ネットワークス

〒901-2301 沖縄県中頭郡北中城村島袋 480 番地

TEL 050-5810-5929 / FAX 098-989-7715

役員・総務担当者
必読!

ChatGPT が変えた情報検索と、 組織が今すぐ取り組むべき AI 時代の業務改革

～徳川家康の「問いを立てる力」から学ぶ、組織の知的生産性向上～

1 経営・管理部門こそ知っておきたい「AI と検索の劇的変化」

ChatGPT の登場によって、インターネット検索や情報収集の常識は大きく書き換えられました。「ChatGPT は単なる便利ツール」という認識で止まっていると、組織全体の情報リテラシーや競争力で遅れを取るリスクがあります。これまでの情報検索は、担当者が「キーワード検索」し、膨大なサイトを比較検証し、手作業でまとめるのが当たり前でした。しかし今や、ChatGPT をはじめとする生成 AI が「問いかけ」に対して整理された答えを返す時代です。この変化をどう受け止め、役員・総務部門として組織に活かすべきか
今こそ経営視点で考えるべきタイミングです。

2 「問いの力」が業務効率と成果を左右する

従来の検索は“根気と経験”がものを言いましたが、AI 時代の情報収集では「どんな問いを投げるか」が鍵になります。たとえば、

2025 年の
オフィスワーク改革の
最新事例を教えて

徳川家康のリーダーシップから
現代の人材マネジメントに
活かせる教訓は？

社内規程改定のポイントを
総務向けに要約して

全社メール
誤送信防止策の
先進事例を 5 つ

といった“具体的な問い”を AI に投げかけることで、整理された情報や仮説を短時間で得られるのです。逆に言えば、**AI 時代の組織が磨くべきは「問いの質」**。部下や現場担当者が何を調べて、どう使うかは「問い」の立て方にかかっています。

3 徳川家康に学ぶ「問い」と「情報活用」

歴史を振り返ると、徳川家康ほど「問い」と「情報」を重視したリーダーは多くありません。家康は戦国の世で情報収集の達人であり、「敵は何を考えているか」「どこに弱点があるか」「戦わずして勝つにはどうすべきか」といった“本質的な問い”を家臣に投げかけ、情報を集め分析し、的確に指示を下していました。

この「問いを立てる力」と「集めた情報の活用法」は、まさに現代経営や総務業務に通じるものがあります。

組織の“知的生産性”を高めるには、誰か一人の能力ではなく、**経営層から現場まで「問いの文化」を育てることが欠かせません。**



4 ChatGPT 活用で変わる総務・管理業務

実際に、総務・管理部門で ChatGPT が活きるシーンは増えています。たとえば、

社内規程・ルールの作成や改定

AI に「最新の法令改正ポイント」「他社の規程事例」「分かりやすい文案」などを質問すれば、下調べや素案づくりの時間が大幅に短縮されます。

労務・人事の相談対応

「育児休業の最新制度」や「メンタルヘルス相談の社内対応マニュアル」「トラブル対応事例」など、人事労務の幅広い知識も AI に質問し、迅速な情報整理に活用できます。

社内コミュニケーション・文書作成

通知文や案内メール、FAQ や社内ナレッジ共有も ChatGPT の得意分野。全社員が使えるテンプレート作成や、複雑な内容の分かりやすい要約も可能です。

リスク管理・情報セキュリティ

昨今増えている「標的型メール攻撃」「情報漏洩対策」など、総務が全社で推進すべきテーマにも AI の最新情報・対策を即時キャッチできます。

5 「AI が間違ふ」前提で、組織リテラシーを鍛える

ただし、ChatGPTをはじめとする生成 AI は“万能”ではありません。AI は「それっぽい答え」を出すのは得意ですが、**事実誤認や古い情報**を含む場合があります。「AI が間違ふ前提」で使いこなすことこそ、役員や管理部門に求められる現代のリテラシーです。

具体的には

- ✓ 出典や根拠が明確な情報か確認する
- ✓ 複数の情報源で事実確認する
- ✓ 社内のルールや文化、実情に合うか吟味し、鵜呑みにせず“自分たちの言葉”で再整理する

このプロセス自体が、組織全体の思考力とリスク管理能力を底上げします。

6 組織で「問いの文化」を根付かせるには

役員・総務担当者の皆さんが旗振り役となって、「問いを立てる力」や「AI 活用力」を組織の新しい基礎力として育てましょう。

具体的なステップとして

AI リテラシー研修の定期開催

全社員を対象に AI の基本的な使い方や留意点を学ぶ場を設ける。

現場と経営層の対話促進

AI 時代の現場課題や可能性について、部門横断的なディスカッションを実施し、トップダウンだけでなくボトムアップのアイデアも吸い上げる。

「良い問い」事例の社内共有

実際に成果が出たプロンプトや、業務に役立つ質問例をナレッジとして全社展開する。

“失敗も共有”するオープンな雰囲気づくり

AI を使った業務での失敗例も率直に共有し、改善サイクルを回す。

徳川家康が「多くの知恵を結集し、状況に応じて柔軟に対応した」ように、現代企業も全社で知恵を集め、“問い”を磨く文化が強い組織を作ります。

7 AI 活用が進む組織の“強み”とは

AI を日常業務の中で“使いこなせている”組織は、こんな強みを手に入れます。

スピード感のある意思決定

必要な情報が即座に手に入り、仮説検証やリスク分析が迅速に進む

イノベーション創出

定型業務を AI に任せ、人は“考えるべきこと”に集中できる

人材育成・属人化防止

全員が AI 活用できる環境では、知識やノウハウが全社に広がりやすい

8 これからの役員・総務担当に求められるマインドセット

「AI が人間を代替する」ことへの不安が叫ばれがちですが、実際は AI をどう使いこなすかが企業力を決める時代です。ChatGPT が日常業務を支援する今、役員や総務が先頭に立ち、

新しい情報活用の型をつくる

部署間の知見をつなぐ

「良い問い」を現場に広げる

こうした動きこそが、変化の激しい時代を生き抜く企業の競争力となります。

AI 時代の経営・管理部門の使命

ChatGPT の登場は、「検索」という日常的な業務すら根本から進化させました。

徳川家康が“問いの力”で乱世を乗り越えたように、現代の役員・総務担当者には「AI と人の知恵をどう結集するか」という視点が求められています。

- “良い問い”こそが新しい知的武器
 - AI は使い方次第で組織の大きな力になる
 - 全社の情報リテラシーと業務改革を担うのは管理部門のあなた
- 今こそ、“問い”を磨き、組織を進化させる旗振り役になりましょう。

もしあなたの会社にも・・・ 広がる「ボイスフィッシング詐欺」

—AI時代の新・だましの手口と守り方—

1 ボイスフィッシングって何？

「ボイスフィッシング」って言葉、聞いたことがありますか？

これは電話（Voice）を使って、相手をだましてお金や情報を盗む詐欺（フィッシング）の一種です。最近、AI技術の進化によってその手口がどんどん巧妙になっています。会社や学校、家族の誰にでも起こりうる新しいサイバー犯罪です。



2 実際に増えているボイスフィッシング被害

2024年ごろから全国で「ボイスフィッシング」の被害が急増しています。特に2025年には、山形銀行や琉球銀行など、複数の地方銀行が立て続けに標的になりました。

たとえば琉球銀行では、ネットバンキングの利用企業に偽の電話をかけ、IDやパスワードを聞き出すなどして、不正送金被害が相次ぎ、1社あたり数千万円、総額では約1億円もお金がだまし取られてしまったのです。

他にも山形鉄道という会社では、偽の銀行担当者から電話があり、偽サイトに誘導されてなんと約1億円を送金してしまいました。会社にとっては死活問題ですし、そこでは新しい信号システムを導入する予定の費用までもが被害に含まれていました。

3 どうやって騙すの？手口の進化

ボイスフィッシングの怖いところは、手口がどんどん進化している点です。昔は、単純な自動音声の電話や、ちょっと怪しい日本語での案内が多かったのですが、今ではAI（人工知能）の技術で本物そっくりの「社長の声」まで再現できてしまいます。

たとえば日本の大手メーカーでは、社長の声をAIで学習させた偽者が、海外出張中の幹部社員に電話をかけ、「今すぐ送金してほしい」と指示。電話番号まで偽装されていたため、受けた人も本物と信じてしまいそうになった、という事件が実際にありました。

さらに、偽のメールアドレスや巧妙な偽サイトを使い、ネットバンキングのIDやパスワード、メールアドレスなどの大事な情報を入力させて盗み取る手口も目立っています。

4 なぜこんな被害が広がるの？

被害が広がる理由はいくつかあります。

AI技術の発達

AIは人の声を簡単に真似できるようになり、インターネット上に社長のインタビュー動画などがあれば、その声を使って「そっくりな偽音声」を作ることができます。

日本のサイバー対策の遅れ

欧米では、怪しいSMSやメールをすぐ通報できたり、企業がセキュリティの仕組みを整えたりしていますが、日本ではその普及が遅れています。また、日本人は「電話＝信用できる」という意識が強いので、つい油断しがちです。

だまされやすい環境

例えば、会社の代表や銀行担当者を名乗って電話がかかってきたら、「信じてしまう」ことも多いです。特に中小企業や地方の会社ほど、ネットバンキングに慣れていない場合、パニックになりやすいのです。

5 企業や銀行はどう対策している？

大きな被害を受けた銀行や企業も、そのまま指をくわえて見ているわけではありません。

例えば、琉球銀行では、被害があった直後に「即時送金の制限」や「新規先への振り込み制限」など、緊急対策を実施しました。被害に遭った会社には、資金繰りの支援や無利子の貸し付けも行われました。

また、警察や専門家は以下のような対策を強く呼びかけています。

被害に遭わないためのチェックリスト

❑ 知らない番号からの電話はまず疑う

銀行や会社を名乗っていても、まずは本当にその人が確かめる。直接、公式の電話番号にかけ直すのが鉄則です。

❑ ネットバンキングは必ず公式サイト・公式アプリから

メールや SMS に書かれたリンクは絶対にクリックしないこと。必ず自分で検索して公式サイトにアクセスしましょう。

❑ メールを送信元や URL を必ず確認

差出人名だけでなく、メールアドレスや URL に怪しい部分がないかもチェックします。似ている名前(例: rn (アールエヌ) が m (エム) に見えるなど)の「偽ドメイン」も要注意。

❑ 社内の業務手順を標準化・複数人で確認

送金や重要な取引を一人だけで判断しない。必ず上司や他の担当者と「ダブルチェック」するルールを作っておくと安心です。

【システム面での対策】

❑ DMARC や BIMI といった認証技術の導入

企業のメールが偽物かどうかを自動で判別し、正規のメールにはロゴマークが表示されるようにする仕組み(BIMI)が、今後銀行や大企業に広がっていきます。

❑ FIDO などの多要素認証や、通話認証規格 (STIR/SHAKEN) の普及

スマホやデバイスでの認証を強化し、電話番号の偽装も技術的に防げる仕組みが海外では進んでいます。日本でも普及が期待されています。

6 企業と社会全体での“多層防御”が必要

サイバー攻撃は、ひとつの対策だけでは止めきれません。個人や企業、銀行・通信会社、そして国や行政が連携して、多層的な防御（いわゆる“重ね着”のようなイメージ）が大切です。

例えば銀行だけが強い認証をしても、顧客が油断してだまされてしまえば意味がありません。逆に、会社側だけでなく、金融庁や総務省などがガイドラインを作り、みんなで基準を引き上げていくことが、今後の日本には求められています。

あなたの「信じる心」が狙われる時代

AI 時代の詐欺は、本当に巧妙で、どんな会社や人でも「自分だけは大丈夫」とは言い切れません。

電話の声も、メールの文面も、偽物かもしれない。だからこそ、「一度立ち止まって、本当に大丈夫か確認する」この“ひと呼吸”が、あなたと会社、大切な仲間を守る最大の防御になります。いま、私たちは「信じる心」を逆手に取られる新しい時代に生きています。IT や AI の進化は便利な一方で、悪用も進んでいる――

その現実を正しく知って、会社でも家庭でも“みんなで守る”文化を育てていきましょう。



2025年のIT どうなってるの？

「ちょっと先の未来」が、もう目の前に来ています。

テクノロジーって、いつも“未来の話”のようで、ちょっと遠い存在に感じませんか？

でも2025年は違います。今年のIT業界は、「**現場で使えるリアルな変化**」が目白押しなんです。

この記事では、「今すでに始まっている未来」をテーマに、2025年の注目ITトレンド6選をわかりやすくご紹介します。

難しい言葉はできるだけ使わず、仕事や生活にどう影響してくるのかも交えて解説します！

1 AIは“秘書”から“同僚”へ ～「エージェント型AI」がどんどん賢くなる～

「AIが代わりに仕事してくれたらな～」と思ったこと、ありませんか？

そんな夢が、2025年にはかなり実現しつつあります。

今注目されているのが「エージェント型AI」という存在。

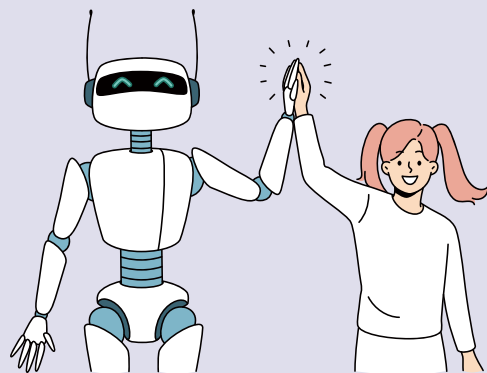
指示を出すと、自分で考えて動いてくれるAIです。

たとえば：

- お客様のメールに自動返信してくれる
- 毎月の報告書を自動でまとめてくれる
- 頼んでもないのに、「これ忘れてない？」と気づいてくれる

…まるで、超優秀な秘書が社内に1人増えたような感覚。

すでに試験導入している企業では、半年で効果を実感しているところもあるそうです。



2 量子コンピュータと暗号、どちらが強い？

2025年、量子コンピュータが急速に進化中！

ただし怖いのは、今のセキュリティ（暗号）が量子の力で破られる可能性があるという点。

そのため、多くの企業や政府では「ポスト量子暗号」と呼ばれる**“未来型の守り方”**

への切り替えが始まっています。

いまやセキュリティも“未来仕様”がスタンダードです。

量子コンピュータは、「0」と「1」を同時に使えるしくみで、とても難しい計算を一瞬でこなす未来のコンピュータです。



3 エッジって何？クラウドとどう違うの？

「クラウド」はよく聞くけど、「エッジ」はまだなじみがないかも？

簡単に言えば、「その場で即処理する仕組み」がエッジコンピューティング。

たとえば：

- 工場の機械が異常を感知した瞬間に、AIが即ストップ
- 防犯カメラが現場で人物を認識してアラート送信

こういった**“超リアルタイム”**な反応が可能になるのが、エッジのすごさです。

2025年には、企業データの7割以上が「クラウドじゃなくエッジで処理される」ようになる見込みです！

4 通信の世界は「5.5G」、そして 6G へ

「まだ 5G が来てないんだけど？」という地域もありますが、
実はもう「5G-Advanced（通称：5.5G）」という進化形が始まっています。
特徴は：

- 通信速度が 10 倍（理論値）
- ドローンや衛星ともつながる
- 混雑時にも通信が安定！

さらにその先の「6G」へ向けて、日本や海外の企業・政府が連携しながら準備を進めています。
この流れ、**ビジネスにも地域開発にも大きく関わってきますよ！**



5 クラウド × AI = リアルタイムな仕事術

これまでは「クラウドは保存の場所」くらいのイメージだったかもしれませんが。
でも今は違います。クラウドに AI とストリーム処理（＝即時分析）が加わり、
“考えて・判断して・動く” クラウドに進化しています。

その結果：

- 営業チームが「今月、売れそうな商品」を自動で予測
- 小売店が「今夜、売れ残りそうな商品」をリアルタイムで割引

まさに、**仕事を一歩先読みする時代**が来ています。



6 コンテンツは「あなた専用」に

動画・広告・ニュースも、2025 年は“あなただけに合わせた内容”が表示される時代。

たとえば：

- 動画の「見どころ」だけを自動抽出
- ニュースの好みを AI が学習して表示
- 通販サイトが「今すぐ欲しくなる商品」をさりげなく提案

これを「ハイパーパーソナライズ」と呼びますが、

ただの便利機能に見えて、実は**企業の売上アップに直結してる**重要な技術なんです。

未来は、もう “始まって” います

技術って、知らないと「難しそう…」ですが、知ると案外「便利！」に変わります。
そして今の IT は、「検討する時代」から「使い始める時代」に突入しました。

AI は、もはや “外注” ではなく “同僚”

通信とセキュリティは未来を見据えて準備

クラウドやデータも “予測” が当たり前

あなたのまわりにも、じわじわと変化がやってきているはず。
この波にのれるかどうか、未来の仕事や暮らしを大きく左右します。



これ知ってる？ 最新技術編

① 「ディープラーニング」は、どのような技術のこと？

- 【A】人間の脳波で機械を動かす技術
- 【B】AIが自分で学んで進化していく技術
- 【C】ネットの検索結果を深く掘り下げる技術

② 「ブロックチェーン」はどんな技術？

- 【A】建物の積み上げに使う構造技術
- 【B】データの改ざんを防ぐ技術
- 【C】スマホの画面を守る保護ガラス

③ 「IoT」とは、どんな考え方の技術？

- 【A】世界中のパソコンを1つに接続すること
- 【B】家電やモノがインターネットにつながる事
- 【C】電波を使って遠くの機器を操ること

強い陽射し
首を冷やして
再起動

暑さでボーッとしがちなこの時期、
冷やすだけでなく、でも集中力が変わります。
ネッククーラーや冷感タオルをうまく使って、
この夏を乗り切りましょう！



AIは空気が読めない！？

